授業科目名	文化人類学		担当教員	上村 淳志	科目ナンバリング LE103
必修	開講年次：１年後期	単位：１単位	授業形態：講義15時間		

【授業概要】

文化の多様性と普遍性の認識を高め、異文化に対する感受性を高める。人間の多様な生のあり様をより広い視点から想像的に捉える力を養う。

【達成目標】

１．文化的・社会的要因が人々の価値観、生活様式、健康に関する理解や態度に影響することへの認識を高める。
２．グローバルな社会の中で国際人として共存するための態度やマナーを身に付ける。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

〔01〕導入：なぜ文化は問題か？
〔02〕文化人類学と医療人類学の歴史：いかにして医療と病気は文化人類学の対象になったのか？
〔03〕近代医療の普及によって伝統医療は消滅するか？：様々な治療法を併用する人々
〔04〕贈与と感情：事例① 臓器移植
〔05〕生殖の権利と生命の選択：事例② リプロダクティブ・ヘルス／ライツと生殖医療
〔06〕病気による社会的差別と自助グループの編成：事例③ HIV/AIDS
〔07〕多重な医療実践と「一つの」病気の様々なバージョン：事例④ 生活習慣病（特に２型糖尿病）
〔08〕まとめ：医療および病気の文化的・社会的要因に注目する必要性

【教科書】

指定なし

【参考書】

これ以外の文献については、授業中に適宜紹介する。
１．飯田淳子・錦織宏【編】（2021）『医師・医学生のための人類学・社会学：臨床症例／事例で学ぶ』ナカニシヤ出版。
２．澤野美智子【編】（2018）『医療人類学を学ぶための60冊：医療を通して「当たり前」を問い直そう』明石書店。
３．磯野真穂（2017）『医療者が語る答えなき世界：「いのちの守り人」の人類学』ちくま新書。

【評価方法・評価基準】

筆記試験：68％（68点満点）、コメントペーパー：32％（４点満点／回×合計８回）

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：次回に扱う映像の全編を見て、内容を理解した上で講義を受けること（１時間）。
事後学習：講義ノートを見直し、授業中に指示する参考文献のうち少なくとも一点以上に当たること（３時間）。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力、Ⅴ．国際的視野と地域貢献能力、と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

コメントペーパーは採点した上で、総論回（第１－３回）についてはコメントと得点の両方を、各論回（第４－７回）とまとめ回（第８回）については得点のみを付して返却する。

【備考】

このグローバル化時代にあって、異文化の人と関わる機会はどんどん増えている。皆さんの中には、将来的に国際支援の現場や海外の病院で活躍する人もいるかもしれない。あるいは、日本に移住や旅行でやってきた異文化の人のケアに関わる機会がある人もいるかもしれない。たとえ自分と同じ文化に属する人だけしかケアしないとしても、ケア対象者の生活環境や個人史といった側面を考慮しなければ十分なケアはできない。そのことを常に念頭において本講義を受けることで、「医療および病気をめぐる文化的・社会的要因を意識する」という態度をしっかりと身に付けて欲しい。講義では、看護師の卵である皆さんのために、文化人類学の中でも医療人類学の分野を中心的に取り上げる。事例についても、大多数が近代的病院で勤務するであろう皆さんのために、日本でも関わる可能性のある事例を取り上げていく。